

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475400461
法人名	社会福祉法人 仙台ビーナス会
事業所名	四郎丸高齢者グループホーム おちあい
所在地 (電話番号)	仙台市太白区四郎丸字大宮45-28 (電話) 022-741-1655
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年8月21日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 8 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤7人、非常勤4人、常勤換算7.4人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋	造り
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	260 円	おやつ	40 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用 7月31日

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科星クリニック、大原英徳歯科医院、ストレスクリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

外観、玄関周りとも一般住宅と変わらないたたずまいで、地域に溶け込んでいる。現在の入居者は殆んど地域の方である。すぐ近くには同法人の介護老人福祉施設をはじめ、関連施設があるので、入居者は日常的にそれらの施設へお茶飲みやサークル活動に出掛けており、介護サービスや運営について連携が図られている。開設当初より家族会の協力が大きな力となっており、「みんなで大きな家族になろう」と話し合い、家族と職員が一体となって入居者を支え合う関係が築かれている。又、70歳代の職員が勤務しており、入居者と年齢的に近いため、共通の話題や体験などで良い話し相手になっているなど、ホーム側の入居者へのキメ細かな配慮が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市町村との連携が十分でないので、そのための改善計画をたて、実践して欲しいとの課題については、市や区の担当者と随時連絡を取り、介護予防など介護サービスの追加、変更などの情報収集に努め、市が主催する研修会にも積極的に参加している。市からの要請で認知症介護に関する研修を年に2、3回計画的に受け入れている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議の場で説明し、全職員が記入した。個人によって評価の違いはあったが、副主任が取りまとめた。又、アウトカム(サービスの成果)について、評価が分かれた部分はその平均を取った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>二ヶ月に一度会議を開いている。事業所からは、行事の報告、入居者の状況、事故発生時の原因究明と対応、防止対策の説明、報告など。運営推進員からは、防災訓練やボランティア活動の協力申し出、ごみネット購入についての助言を受け、その結果、地域の協力を得ての防災訓練や傾聴ボランティアの受け入れに繋がっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>夜間、個室で転倒不安のある入居者の家族の不安について家族会で意見を聴き、夜間巡視をしても死角があるので、その対策として夜勤職員の目の届く、畳敷きの居間に就寝して頂き、少しでも危険が回避されるように努めている。事業所の苦情相談窓口のほかに家族アンケートを実施したり、第三者委員を委嘱し苦情受付、解決のための体制を整えている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
	<p>長年地域の中にあるホームとして、日頃の挨拶はもとより、日常生活の中で、ご近所へお茶のみに伺ったり、庭に咲いた花をいただいたりしている他、お隣と塀越しに話をする姿も見られるなど地域に溶け込んでいる。町内会にも加入している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	[ゆっくり 一緒に 楽しく]という 事業所独自の簡潔で温かみのある、分りやすい理念を掲げているが、開設当初に作られたままであり、地域密着型サービスを加味した理念への見直しを期待する。	○	平成18年の法改正を踏まえ、当ホームが地域に果たす役割や関係性を加味した理念となるよう見直しをお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新採用職員にはオリエンテーションで具体的に伝えて共有化を図っている。全職員は毎月の会議で確認しており、日々の介護支援に生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、総会や夏祭り、資源回収等に入居者や職員が積極的に参加している。又近所のお宅へ気軽に出掛けたり、ボランティアの受け入れも行っている。	○	事業所として、地域の清掃活動等を通して更に交流を増やして行きたいとしているので、それらを実践する事により更に交流が深まる事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については全職員で取り組み、自ら振り返る機会となった。外部評価については職員会議の場で報告、検討し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所側から入居者の状況、行事への取り組み、事故等の報告と対応の説明、運営推進員より災害時の協力やボランティア活動の申し出、ゴミ対策への助言など双方向的な会議の場となっている。運営推進員から出された意見等も議事録に記載していただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期発行の広報誌を市へ郵送している。市や区の担当者とは随時電話連絡を取り、サービスの追加、変更等の情報の収集に努めている。また、市よりの要請で認知症介護の実践者研修を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動については広報紙を活用して報告しており、暮らしぶりや健康状態については面会時に状況説明している。急な変化や受診結果についてはその都度報告している。	○	金銭管理の報告について、通帳と預かり金台帳をコピーして郵送する現行の方法に加えて、使用目的を明記して月一回は書面での報告をお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会総会の折に苦情や意見を聴いているし、家族アンケートを実施している。事業所に苦情相談窓口を設けているほか第三者委員を委嘱し、苦情受付、解決に向け体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は主に法人内のグループホーム「ゆきあい」との間で行われるが、頻度は少なくするよう考慮している。双方の職員が研修を兼ね、何人かが定期的に交換勤務を実施して入居者と顔なじみになるようにし、異動によるダメージが最小限になるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パートも含め職員一人当たり年二回以上、内部及び外部研修に参加している。報告は伝達研修の場で行われる。職員自ら目標を持って勉強会を企画したり、資格取得の勉強をしている。国家資格取得者には昇格など待遇の面で配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会のブロック活動に参加している。職員同士の交流の場として、もちまわり研修見学会に参加し、毎回二名の受け入れをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がホームに馴染めるか見極めるため、入居前見学をしたり、他の入居者と一緒に過ごすなどを数回体験した後本格入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり 一緒に 楽しく」の理念のもと、入居者と共に過ごす事で、職員は入居者から行儀や料理の味付け、皮のむき方など教えてもらい、そのことが会話の糸口になることもある。入居者のできることはなるべくして頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや家族からバックグラウンドの情報を得たり、日常の会話の中から希望、要望を把握するよう努め、申し送りを密にして職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	随時会議を開き、職員間で意見を出し合い入居者、家族の希望に沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新しく入居する時は一週間、その後は一ヶ月、三ヶ月単位で見直しを行っている。見直し後の計画書はまず本人にこれで良いか確認し、家族にも説明し、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じて通院や受診の支援を行っているほか、個人的な外食や園芸センターへの外出付き添いなど柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診できるよう支援している。又家族とかかりつけ医が話し合う場を設けるなど関係作りを手助けしている。今回調査員の訪問時に協力歯科医が訪れ入居者の口腔チェックを行っていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針を定めている。個別に家族に説明し話し合った上同意を得ており、意思確認書を作成している。現在重度化の入居者はいないが、かかりつけ医や看護師、職員は共通の認識を持ち対応する体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への呼びかけは本人が望むように対応している。プライバシーを損ねるような言葉掛けは見られない。個人の記録書類等は目隠しと鍵の付いた戸棚に納められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間など人によってまちまちだが、せかせるような事はしていない。「帰りたい」と言う人には職員が付き添い外周りを歩いたり、ストレスが溜まっていると思われる人には散歩に連れ出したり、ドライブに誘ったりしてその人のペースに沿う支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは出来るだけ一緒に行っている。献立には入居者の好みを取り入れるようにしているほか、季節感ゆたかな行事食を料理好きのパート職員が供してくれる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる態勢である。一番風呂でないと気のすまない方もいるが声かけの工夫で柔軟に対応している。入浴を拒む方は今はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、鶏の世話やそうじ、洗濯物たたみなど自然に力を発揮できるように支援している。事業所で行う行事のほか家族会が花見とクリスマス会を主催し、入居者と家族の大きな楽しみごととなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへの買い物や散歩のほかすぐ近くにある母体施設からも折にふれ誘いの声かけがあり、お茶のみや行事に参加したりしている。いつも出掛ける方もいれば、時々のお出でという方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ。例外的に昼間一時的に職員が一人になる時に危険が予測される時は短時間施錠することもある。近隣の方から見守り、声かけをして頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年二回入居者と職員が地域の防災協力員の協力を得て行っている。マニュアルや防災マップを作成し、消火器の点検や備蓄もされているが、夜間を想定した訓練は行われていない。	○	夜勤職員一人のときを想定した訓練を年二回の防災訓練に加えて行って頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士にカロリー計算等チェックを受け、献立表を作っている。水分摂取は1日1500CCを目安に、摂食状況と共にチェック表に記録している。体重測定は一週間に一度行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気が適切に行われ、臭気や空気の上よみは感じられない。職員の会話のトーンは穏やかである。居間には時計や暦が見やすい高さに設置され、季節の花が生けられて心地よさそうな空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や家具が家族や職員によってつらえられ、壁には思い出の写真や絵が飾られており、それぞれその人らしい居室となっている。		